

春江小学校応援団実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

春江小学校長
応援団長

小林 勝人
芦田 孝二

コーディネーター

佐藤 恵美子

2 今年度の活動内容

(1) 読書活動支援

- ・読み聞かせ活動 月に数回の朝読書を全ての学級で行っています。本は、それぞれ自分の好きなものを選んで持ち寄っています。
- ・パネルシアター 10月のフェスティバルでは、ブラックパネルを使ったパネルシアターも開催し好評を得ました。
- ・図書室の整備 季節ごとの飾り付けや、お勧めの本の掲示を行い、図書室に来るのが楽しみになるよう、読書に興味をもてるように工夫しています。本の修理も定期的に行っています。



(2) 学習活動支援

- ・校外学習支援 生活科や総合などでの校外活動に同行し、グループ活動の支援を行いました。一緒に活動することで、共に学ぶこともできました。
- ・スポーツテスト支援 立ち幅跳びや反復横とび、体前屈などの種目を補助しました。
- ・家庭科実習支援 ミシン操作や、調理などの実習のお手伝いをしました。



(3) 安心安全支援

- ・全校遠足付き添い 春の全校遠足では、篠崎公園までの各路地に旗をもって立ち子供たちの安全を見守りました。850人の通過を見守るのは大変でしたが、たくさんの笑顔と挨拶がもらえて元気が出ました。
- ・登下校見守り PTAの旗振り当番とともに地域の要所に立ち子供たちを見守りました。目を見て挨拶をすればどの子も元気に返事を返してくれることがよくわかりました。



(4) 栽培活動支援

- ・学校農園 今まであまり利用されていなかった農園を整備し、ナスやトマトなどの野菜を収穫したり、ひまわりやホウセンカなどの植物を栽培し学習時に役立てることができました。大きなひまわりの花がたくさん咲き種も大量にとれ、子どもたちの驚く様子がとても印象的でした。
- ・校庭花壇整備 花壇の土を耕したり、四季の花を植えたりして、心地よい良い学校環境を作るお手伝いをしました。



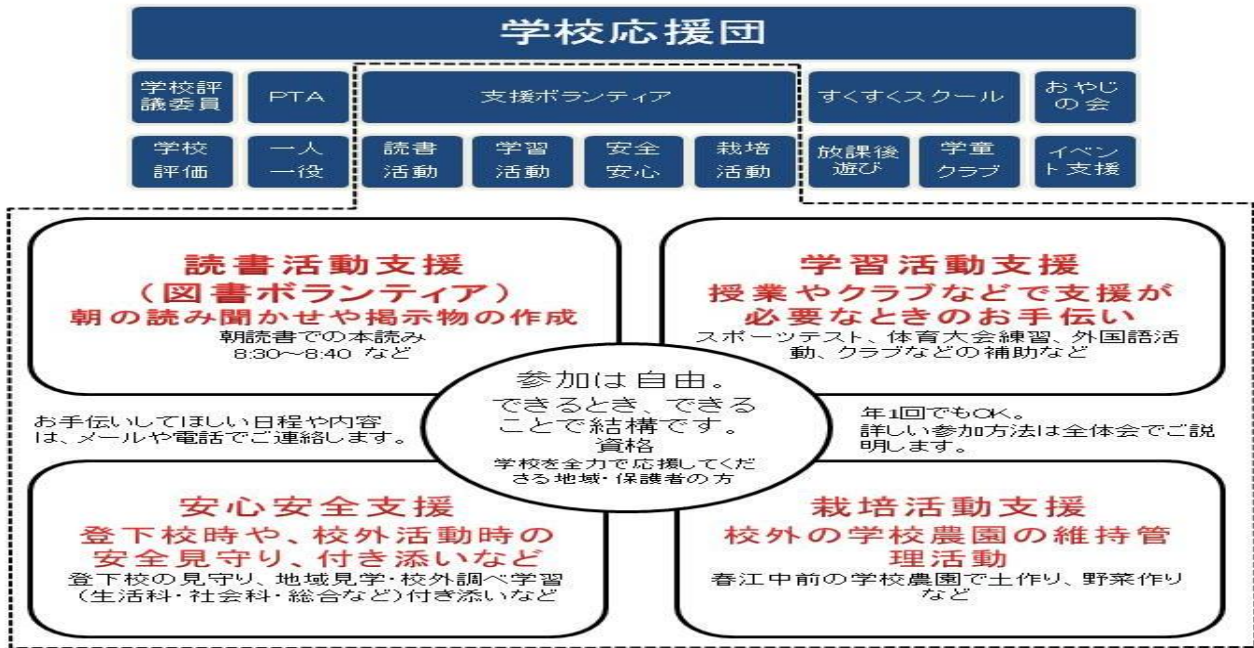
(5) その他

- ・応援団主催のイベント 学校改築が進む中で、運動する場が減ってきました。子供たちのエネルギー発散のために、土曜日のスポーツイベントを企画しました。ドッチボールやドッチビー大会には、たくさんの子供たちが参加して、一緒にたくさん汗をかくことができました。



また、避難所体験(学校に泊まろう)やPTA フェスティバルのお店など、おやじの会やサポートセンターのメンバーとして様々な支援を行いました。どのイベントにもたくさんの子供たちと保護者の方が参加し、盛り上がりました。来年もさらに楽しいイベントを考えていこうと思います。

3 学校応援団組織図



4 今年度の成果と今後の課題

<成果>

昨年度応援団としての本格的な発足から一年をかけて、課題を整理し組織を見直すなどして活動が軌道に乗ってきたところです。今年は、「できる時にできる人が、できることを」を合い言葉に、緩やかで且つ積極的な活動を心がけてきました。メールでの参加募集や、おやじの会の積極的なバックアップなどが効果を発揮し、活動が年々盛り上がってきていると感じます。

<課題>

読書活動支援などの定期的に集まり活動がある支援グループでは、学校への関わりも積極的になり、さらなる活動に発展させることができました。反面、支援の内容によっては、活動が集中する時期と、そうでない時の差が大きく、団員の意識が持続できないことがありました。年間の活動計画を早めに立てて情報を教諭するようにして、持続できる活動が多くなるようにしていきたいです。

5 応援団長より

前年度より活動を見直し、今年度はより組織をわかりやすく明確にして取り組んできました。合言葉は「できることをできるときに。安全で元気で楽しい学校生活を子どもたちのために」です。応援団企画もたくさん実現でき充実した一年でした。来年度はいよいよ仮設校舎移転。さらに強力に支援をしていこうと考えています。



6 学校長より

本校は「心のふるさと、協育・協働の春江小」を理想に掲げ、学校・家庭・地域が一つになって教育活動を推進しています。学校応援団の活動もその中核として大変重要な役割と認識しております。今年度は特に、PTAの委託発表や校舎改築の開始の年と重なり、いよいよ活動が活発にできたと感じました。団員の皆さんには1年を通じて沢山の御力添えいただき、深く感謝しております。これからも、地域の皆様に愛され大切にされる学校づくりを共に進めて参ります。